



御 挨 拶

第 43 回大気環境学会年会

年会長 青木 正敏

(東京農工大学農学部 教授)

このたび、第 43 回大気環境学会年会を東京都府中市の東京農工大学農学部を会場にして開催できますことを関係者一同光栄に存じ、大きな喜びとするところです。ここに、ご参会をいただきました各位に深く感謝すると共に、心から歓迎申し上げます。

人間の諸活動が質的にも量的にも拡大し、自然や地球の循環系や環境浄化を超えるまでになり、地球温暖化や酸性雨あるいはオゾン層の破壊ならびに砂漠化といったように、地球全体の環境劣化が危機的状態にまでなっており、しかも環境問題は広汎かつ多様化しています。都市域ではディーゼル排ガス削減が早急に解決すべき社会問題です。これらの問題解決のためには、社会・経済システムと個人の生活システムならびに環境システムを一つのシステムとして統括した環境対策がなされる必要があります。

この様な観点と、多くの会員のご意見などをしんしゃくし、当年会では次のような種々の企画を計画いたしました。まず、特別講演には地球温暖化問題を取り上げました。「京都議定書の実施と今後の課題」と題しまして環境省の浜中裕徳地球環境審議官にご講演をいただきます。地球温暖化対策に対する国の CO₂ 排出量削減実施とその課題などについての最新の情報をご教示頂きます。第二に、シンポジウムでは「黄砂の発生状況と日本への影響」と題しまして、工学院大学教授の北林興二先生にまとめて頂くことにいたしました。ご承知のように、今年、日本では黄砂の影響が大きく現れました。そこで、日本に運ばれてくる黄砂の状況や性質および現地における黄砂発生状況と砂漠化防止対策などについてご教示頂きます。日本への影響についての知見を深めることができるものと期待しております。なお、この基調講演として、中国・日中友好環境保護センター顧問の全浩先生には、「中国における黄砂研究について」のご講演をお願いしましたところご快諾いただき、非常にありがたく思っております。3 名のシンポジストとともに有意義なシンポジウムが展開されるものと期待しています。

第三に、3 つの特別集会が企画されました。特別集会Ⅰのテーマは「ディーゼル排ガスの影響およびその対策」であり、全国環境研究所協議会と 3 分科会が共催して企画したものです。最近の都市大気汚染問題の重大関心事でありますディーゼル排ガス粒子の低減対策と健康リスク評価の最近の成果が論じられるものと思います。特別集会Ⅱのテーマには地元の三宅島噴火の問題を取り上げました。

「三宅島噴火の現状とその影響」というテーマであり、年会企画実行委員会の企画によるものです。島民の方々が未だに帰島できない現状は歯がゆい想いです。三宅島での噴火状況がどうなっているのか、また三宅島周辺地域に及ぼす影響の最新情報が提示されるものと期待しています。特別集会Ⅲのテーマは「山岳地域における大気汚染・酸性雨—気象、大気化学、酸性雨分野から見た実態—」であり、3 分科会の共催企画です。山岳域での森林衰退が日本各地で散見されますが、その原因を考える端緒になるものと期待しています。

第四は、学会倫理綱領検討委員会の企画による特別セッション「大気環境学会の倫理綱領を考える」です。今後の学会の倫理綱領の取り組みかたを討議していただきます。第五は、分科会集会で、8 つの分科会から合計 23 件の講演が行われます。なお、例年と比べて分科会集会数が少ないのは複数の

分科会が共催して特別集会を企画したからです。これは理事会の意向に沿うものです。これによって、分科会集会が多いことによる聴衆者にとっての弊害を少しは軽減できたと考えています。また、この分科会集会の全てを第一日目（9月11日）の夕方から行うことができました。このためプログラム編成がしやすくなりました。

第六は、公開シンポジウム“学会と市民がつくる環境シンポジウム「考えよう：空気とくらし」”という市民参加の新企画です。3日目の9月13日の午後に開催します。学会員と市民の間には考え方や視点が大きく異なることがあります。その結果、学会が市民生活から遊離してしまい、研究のための研究になったり、学会が独善的になりがちです。これらは環境科学をになう当学会の将来のためには好ましいことではありません。この様な視点からこの新企画を試みたものです。幸いにも当大学農学部が位置する府中市とその近隣の国分寺市および小金井市のご協力を頂き開催できました。7つの講演があり、討論や意見交換のための時間を多く用意してあります。活発で実りある討論ができることを願っております。学会員も是非とも積極的に市民とともに討論に参加していただきたくお願い申し上げます。

第七は、「環境技術セミナー」という新しい企画です。これは、環境技術をになう環境機器メーカーや企画企業からの新技術等を紹介していただくセミナーです。研究者と企業技術者の接点となる場を提供しようとするものです。初めての企画であることもあり11件の演題とやや少ないですが、今後の年会におきましても同様な企画が発展することを願っています。第八に、環境機器展示会を年会の行事として位置付けたことです。多くの研究者・技術者にとって機器やソフト等は欠かせないものですが、新しく開発された機器などを手にとって見ることができる絶好のチャンスですので、展示場を一順してご覧頂きたく存じます。

一般研究発表は346演題が予定されています。そのうちポスター発表の36演題が2日目の9月12日の09:30～12:00の間に予定されています。優れたポスター発表にはベストポスター賞（2件）を贈呈し、同日夜の懇親会にて表彰します。この賞は年会参加者の投票で選出しますので、是非ポスター発表を見ていただき、投票をお願い申し上げます。なお、今回、企画実行委員のアイデアと努力で、分かりやすい年会日程表を作成しました。講演者・口頭発表者が誰で、どこの会場で、どの分野で、誰の座長のもとで、いつ発表するかが一目瞭然です。講演や研究発表等を見逃すことなく参加できるようになっています。また、会場も分散しないように心がけたつもりです。懇親会は、2日目の9月12日の夜に、由緒ある大国魂神社において開催し、会員相互の交流と親睦を図る機会を設けましたので、多数の方々のご参加をお待ちいたしております。

さて、例年と比べて一般研究発表数はやや少ないですが、多くの新しい企画による年会の運営ができました。これは企画実行委員会委員各位の献身的な努力の賜です。各位のご尽力に対しまして心より感謝申し上げます。

最後に、多数の一般研究発表ならびに分科会講演をお寄せくださいました学会員の皆様と分科会世話人のご協力に重ねて御礼申し上げますとともに、学会員各位の積極的な学会活動とその意欲に心より敬意を表します。不慣れな企画・運営のために、演者をはじめご参会の各位に失礼や行き届かぬところも種々あろうかと存じますが、なにとぞご寛容のほどお願い申し上げます。当年会が、ご参会の皆様方にとって実り多く有意義なものであり、また学会にとっても意義深いものになりますことを祈念しまして年会長の挨拶といたします。